



2006年7月3日

[1] 2006年度日本IFTOMM会議総会の報告

平成18年6月30日(金), 東京工業大学石川台3号館工学系会議室において2006年度総会が開催され, 2005年度の事業報告, 収支決算報告および監査報告, 年会費改定の件, 2006年度の事業計画および収支予算の審議ならびに承認が行われた。主な議事, 決定内容の詳細は下記の通りである。

I. 2005年度事業報告

1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2005年9月27日)
- (2) 国際会議International Workshop on Computational Kinematics (CK2005)
(2005年5月4日~6日, イタリア, カッシーノ市)へ協賛
- (3) 国際会議The 1st International Conference on Design Engineering and Science (ICDES2005) (2005年10月28日~31日, オーストリア, ウイーン市)へ協賛
- (4) 国際会議9th International Conference on Mechatronics Technology (ICMT2005)
(2005年12月5日~8日, マレーシア, クアラルンプール市)へ協賛
- (5) 国際会議16th CISM-IFTOMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control (ROMANSY2006) (2006年6月20日~24日, ポーランド, ワルシャワ市)へ協賛

2. 国内活動

- (1) 実行委員会を2回開催(2006年1月24日, 2006年5月23日)
- (2) 2005年度総会を開催(2005年6月17日, 東京工業大学大岡山キャンパス)
- (3) 第11回日本IFTOMM会議シンポジウムを開催
(2005年6月17日, 東京工業大学大岡山キャンパス)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰実施(2005年6月17日)
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく第1回優秀論文賞授与)
- (5) 日本IFTOMMニュースNo.33を発行(2005年12月26日)
- (6) 日本IFTOMM会議のホームページ:

<http://www.mep.titech.ac.jp/micro/iftomm/japanese/index.html> を更新
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞を制定,

3. 会員の状況 (2006年4月1日現在)

個人会員: 101名

賛助会員: 5団体

(株)小笠原プレジジョンラボラトリー

太陽誘電(株)

(財)機械振興協会

(株)東芝

日機装(株)

Ⅱ. 2005年度収支決算報告(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

1. 一般会計

収入の部

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	備 考
会費収入(個人)	450,000	285,000	2002 3,000 × 3 2003 3,000 × 2 2004 3,000 × 14 2005 3,000 × 76
会費収入(賛助)	300,000	150,000	2005 50,000 × 3
総会懇親会会費	100,000	100,000	5,000 × 20
見学会会費	50,000	0	
利息		25	
小 計	900,000	535,025	
前期繰越金	-170,162	-170,162	
合 計	729,838	364,863	

支出の部

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	備 考
[国際活動費]	228,000	245,780	2006年度会費
IFTtoMM 年会費	220,000	237,780	US\$ 2,000.00 × 118.89
送金手数料	8,000	8,000	
[国内活動費]	427,000	405,308	
会議費	15,000	11,200	実行委員会費用
シンポジウム・総会費	230,000	213,540	
見学会懇親会	10,000	0	
通信費	25,000	33,780	切手, 宅急便等
コピー代	15,000	15,000	
事務委託費	100,000	100,000	
郵便振替費	5,000	6,100	
ホームページ維持費	12,000	12,000	
フェロー記念品	5,000	3,500	
予備費(雑費)	10,000	10,188	文具等
[MMT誌費]	66,000	55,000	
賛助会員購読料	66,000	55,000	11,000 × 5 (2005Vol.40) (MMT誌会計へ繰入れ)
小計	721,000	706,088	
剰余金	8,838	-341,225	

2. MMT誌会計

収入の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
MMT誌購読料収入			11,000 × 16 (2005Vol.40)
個人	275,000	231,000	11,000 × 5 (2004Vol.39)
賛助	66,000	55,000	11,000 × 5 (2005) (一般会計から繰入れ)
小計	341,000	286,000	
前期繰越金	2,033	2,033	
合計	343,033	288,033	

支出の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
出版社への支払	275,000	313,102	VOL. 40 (2005)
送金手数料	8,000	8,000	EUR 89.00 × 25 × 140.72 (一冊単価: ¥ 12,524)
小計	283,000	321,102	
剰余金	60,033	-33,069	
合計	343,033	288,033	

3. Young Investigator Fund会計

収入の部

項目	予算	決算	備考
前期繰越金	1,000,000	1,000,000	
合計	1,000,000	1,000,000	

支出の部

項目	予算	決算	備考
賞品(図書カード)	30,000	30,000	
賞状および賞牌	4,000	7,885	
論文審査連絡通信費	6,000	6,700	
小計	40,000	44,585	
剰余金	960,000	955,415	
合計	1,000,000	1,000,000	

3. 準備金等

(1) 国際会議準備金	710,000
(2) 国際交流活動準備金	400,000
合計	1,110,000

Ⅲ. 2005年度監査報告

剰余金処分案

	平成18年3月31日	単位:(円)
1. 当期未処理分剰余金	1,691,121	
(1)一般会計	-341,225	
(2)MMT誌会計	-33,069	
(3)Young Investigator Fund	955,415	
(4)国際会議準備金	710,000	
(5)国際交流活動等準備金	400,000	
2. 剰余金処理額	0	
(1)一般会計	341,225	
(2)MMT誌会計	33,069	
(3)Young Investigator Fund	0	
(4)国際会議準備金	0	
(5)国際交流活動等準備金	-374,294	
3. 次期繰越剰余金	1,691,121	
(1)一般会計	0	
(2)MMT誌会計	0	
(3)Young Investigator Fund	955,415	
(4)国際会議準備金	710,000	
(5)国際交流活動等準備金	25,706	

上記のとおり相違ありません。

平成18年4月

日本IFTtoMM会議実行委員会
委員長 中村 仁彦
幹事 岩附 信行

上記の調査を遂げ、その正確であることを承認します。

監事 大輪 武司

監事 山川 新二

IV. 年会費の改定の件

1. 実行委員会からの年会費改定の提案

年会費改定に関して、実行委員会より以下の提案があった。

本会は1979年の創設以来、個人会員3,000円、賛助会員50,000円の年会費を徴収して運営にあたってまいりました。しかし、ここ数年、財政状況が逼迫しており、とりわけここ2年間は毎年約170,000円を赤字を出しております。その主たる理由は、

- (1) 個人会員の漸減
- (2) 年会費不払い会員の増加
- (3) シンポジウム経費(とくに予稿集の印刷と個人会員への配布)の増大
- (4) 為替レートの変化(IFTOMM年会費およびMMT誌支払い)
- (5) 諸物価の上昇

であり、実行委員会も種々、支出の節減に努めてまいりましたが、収入の減少はいかんともしがたく、現状にいたっております。これ以上の支出の節減は、本会の代表的な行事であるシンポジウムおよび特別講演会・見学会などの中止のやむなきにいたります。しかしながら、同時にここ数年、シンポジウムおよび特別講演会・見学会の活発化、公式WEBの整備などの国内活動の活性化のみならず、IFTOMM本部のTechnical Committeeへの委員参加やIFTOMMの各Technical Committeeが主催する国際会議の招致などの、本来、本会の目的とする国際活動の活性化を進めており、ようやく本会の存在意義を示すところにきております。

そこで、実行委員会として今後も支出の一層の節減、年会費支払いの督促および個人あるいは賛助会員の入会勧誘等財政状況改善のための努力を続けて参りますが、本会の財政基盤を確かにするために、個人会員の年会費を5,000円に改定(賛助会員については据え置き)させていただきたく、提案させていただきます。創設以来約30年間据え置かれていた個人年会費を一挙に増額することはたいへん心苦しく存じますが、先に述べた国内および国際活動の一層の活性化を図り、本会の目的達成のために努力することをお約束しますので、この件、お認めいただきたくお願い申し上げます。

2. 意見交換と議決

総会出席の会員諸氏との意見交換を行ったのち、決をとり、個人会員の年会費を5,000円に改定することを承認した。

V. 2006年度事業計画案

1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2006年6月20日)
- (2) 国際会議7th International Conference on Rotor Dynamics
(2006年9月25日～28日, オーストリア, ウイーン市)へ協賛
- (3) 国際会議10th International Conference on Mechatronics Technology (ICMT2006)
(2006年11月20日～24日, メキシコ, メキシコシティ)へ協賛
- (4) 国際会議17th CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and Control
(Romansy2008) (2008年7月～9月, 日本, 東京にて開催予定)へ協賛

2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催予定(2006年6月, 2006年11月, 2007年1月)
- (2) 2006年度総会を開催(2006年6月30日, 東京工業大学)
- (3) 第12回日本IFTtoMM会議シンポジウムを開催
(2006年6月30日, 東京工業大学)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞授与,
2006年度第12回シンポジウムにて)
- (5) 日本IFTtoMMニュースを年1回発行予定
- (6) 日本IFTtoMM会議のホームページを充実する
- (7) 特別講演会/見学会を企画する
(2006年11月7日, JR東日本大宮総合車両センター(旧国鉄大宮車両工場),
電車の整備, 磐越西線のSLを見学し, 特別講演(予定))
- (8) 会員増強キャンペーンを行う

VI. 2006年度収支予算案(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

1. 一般会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
会費収入(個人)	600,000	5,000 × 105(名) (2006年度分) 3,000 × 25(名) (2005年度分)
会費収入(賛助)	350,000	50,000 × 5(社) (2006年度分) 50,000 × 2(社) (2005年度分)
シンポジウム予稿集売り上げ	10,000	1,000 × 10(名)
総会懇親会会費	100,000	5,000 × 20(名)
見学会懇親会会費	60,000	4,000 × 15(名)
小計	1,120,000	
前期繰越金	0	
合計	1,120,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
[国際活動費]	248,000	
IFTtoMM 年会費	240,000	2007 US\$ 2,000
送金手数料	8,000	
[国内活動費]	408,500	
会議費	12,000	実行委員会費用
シンポジウム・総会費	220,000	シンポジウム総会費用
見学会費用	10,000	
通信費	34,000	切手, 宅急便等
コピー代	20,000	
事務委託費	80,000	年間
郵便振替費	7,000	
ホームページ維持費	12,000	年間(アルバイト雇用)
フェロー記念品	3,500	
予備費(雑費)	10,000	文具等
[MMT誌費]	60,000	12,000 × 5 (2006Vol. 41)
賛助会員購読料	60,000	(MMT誌会計へ繰入れ)
国際会議準備金積立	100,000	
国際交流活動等準備金積立	250,000	
小計	1,066,500	
次期繰越金	53,500	
合計	1,120,000	

2. MMT誌会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
MMT誌購読料収入		
個人	262,000	12,000 × 20 VOL. 41 (2006) 11,000 × 2 VOL. 40 (2005)
賛助	60,000	12,000 × 5 (一般会計から繰入れ)
小計	322,000	
前期繰越金	0	
合計	322,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
出版社への支払	312,500	VOL. 41 (2006) 12,500 × 25
送金手数料	8,000	
小計	320,500	
次期繰越金	1,500	
合計	322,000	

3. Young Investigator Fund会計

収入の部

項目	予算	備考
前期繰越金	955,415	
合計	955,415	

支出の部

項目	予算	備考
賞品	30,000	図書カード
賞状および賞牌	4,000	レーザー彫刻盾
通信費	6,000	論文審査連絡通信費
小計	40,000	
次期繰越金	915,415	
合計	955,415	

4. 準備金

(1)国際会議準備金	810,000
(2)国際交流活動準備金	275,206

VII. 2006年度日本IFToMM会議実行委員会委員

委員長	中村 仁彦	東京大学
副委員長	北條 春夫	東京工業大学
	斎藤 之男	東京電機大学
幹事	岩附 信行	東京工業大学
委員	伊能 教夫	東京工業大学
	内山 勝	東北大学
	大岩 孝彰	静岡大学
	大石 久己	工学院大学
	木村 康治	東京工業大学
	五嶋 裕之	(財)機械振興協会
	小西 義昭	日機装(株)
	斎木 康平	富士重工業(株)
	下条 誠	電気通信大学
	下田 博一	明治大学
	杉本 浩一	東京工業大学
	高西 淳夫	早稲田大学
	高信 英明	工学院大学
	高増 潔	東京大学
	谷江 和雄	首都大学東京
	寺田 英嗣	山梨大学
	中田 毅	東京電機大学
	南後 淳	山形大学
	樋口 俊郎	東京大学
	福田 敏男	名古屋大学
	松下 修己	防衛大学校
	松日楽信人	(株)東芝
	森脇 一郎	京都工芸繊維大学
	八島 真人	防衛大学校
	渡辺 克己	山形大学
会計監事	山川 新二	工学院大学
	大輪 武司	日本機械学会

総会の様子を以下の写真で示す.



中村実行委員長開会の挨拶



2005年度事業・収支決算報告



2005年度監査報告



質疑応答



高西委員Romansy2008招致の報告



斎藤副委員長閉会の挨拶

[2] 第12回日本IFT_oMM会議シンポジウムの報告

総会に先立ち、下記の要領で2006年度第12回のシンポジウムが開催された。

ミシガン大学倉林活夫教授による特別講演「分子生物マイクロ・ナノハイブリッドデバイス ～パワーエクストラクションとバイオセンシングにむけて～」および一般講演19件の発表発表講演があった。一般講演1件につき発表時間15分、討論5分で行われた。シンポジウムの参加者は約50名で講演会場がほぼ満席となり、熱心な討論が行われた。

第12回 日本IFT_oMM会議シンポジウム プログラム

日 時： 2006年6月30日(金) 8:55～18:00

会 場： 東京工業大学石川台3号館工学系会議室(304号室)

発表テーマ：

セッション1:「機構の解析」

座長 北條春夫(東工大)

1. 大きな把持力が得られる直動機構

○高木 健(東工大院), 小俣 透(東工大)

2. 歯切り加工する等高歯ハイポイドギヤの3次元歯面形状解析

○狩野正樹(富士重工業), 飛澤圭一郎, 斎木康平, 横山剛士, 小野 晃

3. 万年時計の機構解明

○横田泰宏((株)東芝), 吉田充伸, 羽藤武宏, 久保田裕二,
鈴木一義(国立科学博物館)

4. 超柔軟要素を利用したマニピュレーションの提案

○鈴木高宏(東京大), 蛭原裕治(トヨタ自動車), 鈴木崇裕(三菱電機)

セッション2:「ロボットの運動軌道生成」

座長 伊能教夫(東工大)

5. 軌道アトラクタ設計によるロボットの運動創発とタップダンスロボットの制御

—力学特性の大きな変化を伴う運動への適用—

村上健治(東工大), ○岡田昌史, 岩附信行

6. 厳しい時間拘束下で多様に接地状態を変化させるヒューマノイドロボットの脚動作計画

○山本 江(東京大), 杉原知道(東京大), 中村仁彦

7. 冗長シリアルマニピュレータの運動空間分解制御

○滝 康嘉(東工大院), 杉本浩一(東工大)

8. ヒューマノイドロボットにおける人とインタラクションを通じたコミュニケーションモデルの獲得

○高野 渉(東京大), 山根 克, 中村仁彦

セッション3:「ダイナミクス」

座長 八島真人(防衛大)

9. 高次スペクトル解析を用いた非線形振動系の解析

○松本宏行(ものづくり大), 小山智良(ケーヒン), 大石久己(工学院大),
山川新二

10. 防振工具に関する研究

○藤原浩幸(防衛大), 松下修己, 田村太宏(防衛大院)

11. 超音波振動を用いたアクティブエアベアリング(第7報)ー直動エアガイドの制御ー

○大岩孝彰(静岡大), 鈴木良輔

特別講演

講 師: 倉林活夫先生

(米国ミシガン大学工学部機械工学科, 電気工学科兼任準教授)

講演題目: 分子生物マイクロ・ナノハイブリッドデバイス

ー パワーエクストラクションとバイオセンシングにむけて ー

司 会: 岩附信行(東工大)

セッション4:「マイクロ機構・アクチュエータ」座長 斎藤之男(東京電機大)

12. 水熱合成法によるマイクロ繊維毛アクチュエータの圧電薄膜の形成

○森田堅次郎(東工大院), 岩附信行(東工大), 森川広一

13. 射出成形製パンタグラフ機構の大変形ヒンジの長寿命化

○齋藤靖之(東工大院), 神谷大揮(東工大精研), 堀江三喜男

14. 静電アクチュエータの小型ズームカメラシステムへの応用

○秋葉敏克((株)東芝), 古賀章浩, 吉田充伸, 嶋 康男, 服部俊介

セッション5:「バイオメカニクスおよび福祉機器の開発」座長 杉本浩一(東工大)

15. フリークライミングのバイオメカニクス ークライミング姿勢の数理モデル化ー

○大滝義彦(東工大院), 小関道彦, 木村 仁, 伊能教夫

16. Passive Stiffness Estimation of Human Joints and its Medical Applications Based on Musculoskeletal Dynamics Model and Motion-Capturing

○Gentiane VENTURE(Univ. of Tokyo), Yoshihiko NAKAMURA and Katsu YAMANE

17. リハビリテーションアーム及び下肢動力装具の研究

○鉢村 瞬(東京電機大), Thomas MAIRE(ENSMM), 斎藤之男(東京電機大),
羽根吉寿正, 音琴 浩

18. 触覚GUIを可能とする視覚障害者用入出力装置の開発 ー第三試作機の概要・実験ー

○島田茂伸(都産技研), 長澤 俊(電通大)篠原正美(産総研), 清水 豊(電通大),
下条 誠

19. バイラテラルサーボの基礎実験とパワーウィンドウへの応用研究

○小泉真吾(東京電機大), 斎藤之男, 田島孝光(本田技研), 大川 司

以上

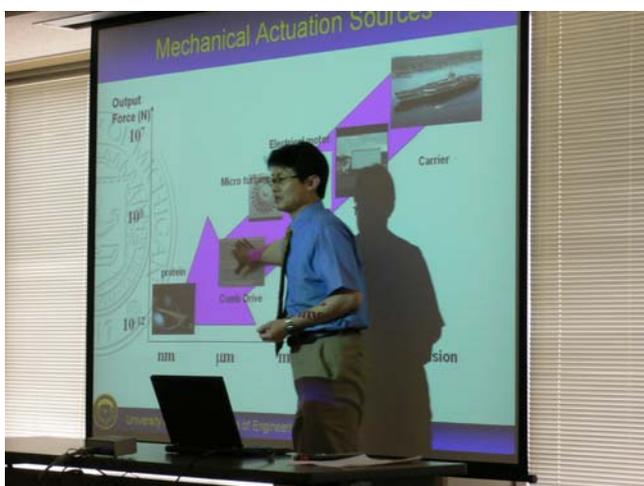
シンポジウムの様子を以下の写真に示す。



北條副委員長開会挨拶



一般講演



倉林教授特別講演



一般講演

また、2005年度から創設された「Young Investigator Fund」に基づくBest Paper Awardについて、本会フェローで構成される審査委員会による講演論文の事前審査に基づき、下記3名のFinalistが選出され、

- (1) (株)東芝研究開発センター 横田泰宏君
論文: 万年時計の機構解明
- (2) 東京工業大学大学院 滝 康嘉君
論文: 冗長シリアルマニピュレータの運動空間分解制御
- (3) The University of Tokyo Gentiane VENTURE君
論文: Passive Stiffness Estimation of Human Joints and its Medical Applications Based on Musculoskeletal Dynamics Model and Motion-Capturing

さらに、講演発表の審査に基づき、(株)東芝研究開発センター 横田泰宏君にBest Paper Awardを贈賞した。

その表彰式はシンポジウム終了後、審査委員長北條実行副委員長の司会により開催され、Best Paper Award受賞者には賞状、賞牌、賞品ならびにFinalistには賞状および賞品が中村実行委員長より贈呈された。その表彰式の写真を次ページに示す。



北條審査委員長の審査経過の説明



賞状・賞品の贈呈(滝康嘉君)



賞状・賞品の贈呈(Gentiane VENTURE君)



賞牌の贈呈(横田泰宏君)

[3] IFToMM人事に関する報告

1. 2007-2010年度執行委員会(Executive Council)

IFToMM加盟の各国組織からの推薦投票に基づき, Nominating Committee(Chair: Prof. Jorge Angeles)が候補者を取りまとめ, 現執行委員会(2004-2007年度)の承認を経て, 下記のように決定されたとの報告がありました.

President :	Prof. Marco Ceccarelli (University of Cassino ,Italy)
Vice-President :	Prof. Clement Gosselin (Laval University, Canada)
Secretary General :	Prof. James Trevelyan (The University of Western Australia, Australia)
Treasurer :	Dr. Joseph Rooney (The Open University, UK)
Members:	Prof. Veniamin Goldfarb (Izhevsk State Technical University,Russia)
	Dr. Theodor Ionescu (University of Bucharest, Romania)
	Prof. Carlos S. Lopez-Cajun (Universidad Autonoma de. Queretaro Mexico)
	Prof. Prof. Qin Datong (Chongqing University, P.R. China)
	Prof. Bahram Ravani (UC Davis, USA)
	Dr. Miroslav Vaclavik (Research Institute of Textile Machines, Czech)

2. Mechatronics TC chair

Mechatronics Technical Committeeの委員長として、本会会員の東京工業大学精密工学研究所所長 横田眞一教授が選出されました。

3. 日本IFTtoMM会議会員のTC委員就任

IFTtoMMの各Technical Committee委員として、下記の本会会員が就任し、活動を行っています。

Committee	Members
Gearing	北條春夫(東工大), 森脇一郎(京都工繊大)
Human-machine Systems	伊能教夫(東工大)
Linkages and Cams	寺田英嗣(山梨大)
Mechatronics	横田眞一(東工大)[Chair], 下條誠(電通大), 岩附信行(東工大)
Micromachines	堀江三喜男(東工大), 鈴木健司(工学院大)
Nonlinear Oscillations	金子成彦(東大), 矢ヶ崎一幸(岐阜大)
Reliability	下田博一(明治大)
Robotics	谷江和男(首都大学東京), 高西敦夫(早稲田大)
Rotordynamics	田中正人(大学評価・学位授与機構)